

◆ 平成30年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 エコ.エコ

21A-32

代表者：代表理事 加倉井 憲一

URL : <http://kaerunomaru.world.coocan.jp>



1. 活動が必要とされた状況

保全場所の周辺環境含めた実情を把握するために、カメラとドローンの助成を必要としました。体力の消耗の少ない道具と作業の効率化を図る道具を必要としました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）2018.4.1～2019.2.20

湿地保全 月2回 第2木曜、第3金曜

他に臨時保全を実施

観察会 見沼自然公園にて月1回

里山体験 畑、森、湿地での保全体験

ゴミ拾い 畑作業

支援活動 チャレンジスクール、民家園、地球っ子クラブ2000 アンロードなど

埼玉モニタリング調査 イベント 夢みらい、キッズジャンポリー、見沼秋フェスなど

森の手入 講演会 環境講演会

ボランティア延べ人数 670人 一般参加者人数 大人 979人 子供 983人 計 2632人



3. 活動の成果

○里山体験を行う里山.comを実施するためには毎週の畑作業を欠かすことは出来ません。枯れ草などを細かくする押し切り機や畑の周りの草刈りには立鎌、電動のスリムバリカンはとても有効な道具で、スタッフの労力が軽減されました。収穫物を食べることで食育にもなっています。

○ドローンで保全地を空撮することで、全体を把握することが出来、保全計画の見通しがはっきりしました。ヨシ原だと思っていた場所もノイバラが多いことを空撮によって理解でき、保全計画の見直しに繋がりました。

○今まで行ってきた湿地の保全活動、観察会、里山体験、イベント、支援活動を例年通り実施できました。また、講演会は子育てグループとコラボして実施できました。音楽グループとの里山体験や防災キャンプも実施できました。

○湿地に置いてある龍も道行く人の目にとまるようになり、見沼原形保全区間の目印になりつつあります。



4. 今後に残された課題

①見沼原形保全区間の手入れを今後とも行い、動植物の保護に努め生物多様性の保たれる空間を増やしていき、多くの方の理解を得る努力をします。

②環境教育、自然観察会、里山体験を行うことで、豊かな社会を創る一つの力になるように働きかける方法を模索中です。

③動植物の記録をまとめの準備中です。

④公有地に向けた取り組みを模索中です。